

D-4 保育的遊戯療法の実践的研究 (1) 社会性の発達を中心に
お茶大家政 日 鈴木宏子 浅見千鶴子 伊賀順子 寿十代子

目的 われわれは、何らかの原因により、発達の遅れを持つ幼児を対象とし、小集団による保育的遊戯療法を実施してきた。発達の遅れは、主に、「ことばが遅い」「友達遊びができない」ということで気がかれ、これらは主に、社会性の発達と関連のある問題である。そこで、その結果と成果を、社会性の発達に注目して、遊戯治療過程と分析し、対人関係の発展経過、発展を促す契機、要因などを探った。

方法 1975年に約10ヶ月間治療した4例(心理的原因によることばの遅れを持つ2才の男児、3才の男児、自閉的傾向を持つ2才の男児、精神発達遅滞の3才男児)についての治療経過の中から、母親、治療者、他の子供達に対する行為に重点を置き、対人行動の変化を発達的に捉えた。その際、Partenの社会性の発達による遊びの分類を参考にした。

結果 4例のうち、3例については対人行動の発展がみられ、それに伴ったことばなどの全面的な発展があったが、1例については、あまり発展がみられなかった。対人行動の発展がみられた3例についての治療経過を分析考察した結果、(1)本遊戯療法における対人行動の発展経過は、乳幼児の社会性の発達段階と対応したものと考えられることができる。即ち、まず、母親・治療者に対して行動が発展し、少し遅れて並行した形で、子供との対人行動の発展がみられる。(2) 子供との対人行動の発展には、まず、他の子供に対する注目が重要であり、それが基盤となって、他の子供への接近、働きかけが起り、それが友達遊びへと発展してゆく。